

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成31年2月13日

【四半期会計期間】 第59期第3四半期  
(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)

【会社名】 ダイハツディーゼル株式会社

【英訳名】 DAIHATSU DIESEL MFG.CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 木下 茂樹

【本店の所在の場所】 大阪市北区大淀中一丁目1番30号

【電話番号】 06-6454-2332

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 合田 修

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区大淀中一丁目1番30号

【電話番号】 06-6454-2331

【事務連絡者氏名】 執行役員管理統括部長 水科 隆志

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期 連結累計期間	第59期 第3四半期 連結累計期間	第58期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	42,872,734	39,076,892	60,166,782
経常利益 (千円)	2,084,812	1,157,085	3,104,023
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,405,288	738,593	2,095,926
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,552,100	626,994	2,110,011
純資産額 (千円)	37,534,196	38,241,599	38,092,111
総資産額 (千円)	77,834,892	80,249,061	80,969,255
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	44.14	23.20	65.83
自己資本比率 (%)	48.2	47.6	47.0

回次	第58期 第3四半期 連結会計期間	第59期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.55	8.01

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、計画中であった姫路工場が完成し、連結子会社「ダイハツディーゼル姫路(株)」は平成30年8月より事業を開始しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日～平成30年12月31日）における我が国経済は、堅調な企業業績や雇用環境の改善を背景に引き続き緩やかな回復基調にあるものの、米中の貿易摩擦等、世界経済に与える懸念材料も多く、依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような企業環境下、積極的な事業展開を進めましたものの、当第3四半期連結累計期間の売上高は39,076百万円（前年同四半期比8.9%減）となり、利益面におきましては、営業利益は1,028百万円（前年同四半期比47.0%減）、経常利益は1,157百万円（前年同四半期比44.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は738百万円（前年同四半期比47.4%減）となりました。

当社および連結グループのセグメント別の業績は次のとおりであります。

#### < 内燃機関部門 >

##### イ) 船用機関関連

主力の発電用補機関において、海外向けを中心に機関売上が減少したこと等により、売上高は32,469百万円（前年同四半期比7.5%減）、セグメント利益は2,717百万円（前年同四半期比31.6%減）となりました。

##### ロ) 陸用機関関連

機関販売台数および売上が減少したものの、メンテナンス関連の売上が増加したこと等により、売上高は4,209百万円（前年同四半期比16.4%減）、セグメント損失は148百万円（前年同四半期は299百万円のセグメント損失）となりました。

従いまして、当部門の売上高は36,678百万円（前年同四半期比8.6%減）、セグメント利益は2,568百万円（前年同四半期比30.1%減）となりました。

#### < その他の部門 >

##### イ) 産業機器関連

アルミホイール部門に関しましては、販売数の減少により、売上高、セグメント利益とも減少となりました。

##### ロ) 不動産賃貸関連

不動産賃貸関連に関しましては、売上高は微増となり、セグメント利益は微減となりました。

##### ハ) 売電関連

売電関連に関しましては、売上高は微増となり、セグメント利益は増加となりました。

##### 二) 精密部品関連

精密部品関連に関しましては、売上高は減少となりましたが、セグメント損失は縮小となりました。

従いまして、当部門の売上高は2,398百万円（前年同四半期比12.0%減）、セグメント利益は242百万円（前年同四半期比13.8%減）となりました。

当第3四半期連結会計期間末における財政状態の概要につきましては、総資産は、80,249百万円となり、前連結会計年度末に比べ、720百万円の減少となりました。負債の部は42,007百万円となり、前連結会計年度末に比べ、869百万円の減少となりました。純資産の部は38,241百万円となり、前連結会計年度末に比べ、149百万円の増加となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産の部では、現金及び預金が前連結会計年度末に比べ、1,077百万円減少となりました。また、前連結会計年度末の売上債権の回収が進み、受取手形及び売掛金が4,139百万円減少となりました。一方で、たな卸資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、2,324百万円増加となりました。また、投資有価証券が1,755百万円増加となりました。その結果、資産の部合計については、前連結会計年度末に比べ720百万円減少し、80,249百万円となりました。

負債の部では、支払手形及び買掛金と電子記録債務の合計が前連結会計年度末に比べ、219百万円減少となりました。また、その他の流動負債が主に設備投資に係るものの減少により、1,530百万円減少しました。さらに、未払法人税等が法人税等の納付により、534百万円減少となりました。一方で、短期借入金と長期借入金の合計は、姫路工場建設を目的として、新たに長期借入金を2,500百万円調達したこと等により、1,631百万円増加となりました。その結果、負債の部合計では、前連結会計年度末に比べ869百万円減少し、42,007百万円となりました。

純資産の部では、利益剰余金が261百万円増加となりました。その結果、純資産の部合計では、前連結会計年度末に比べ149百万円増加し、38,241百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、1,585百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、計画中であった姫路工場が完成し、平成30年8月より操業を開始しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,850,000	31,850,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 100株であります。
計	31,850,000	31,850,000		

(注) 昭和41年5月2日会社設立資本金10億円のうち現物出資額548,900千円があります。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年12月31日		31,850,000		2,434,300		2,150,863

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 16,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,831,400	318,314	
単元未満株式	普通株式 2,400		
発行済株式総数	31,850,000		
総株主の議決権		318,314	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権20個)含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) ダイハツディーゼル株式会社	大阪市北区大淀中一丁目 1番30号	16,200		16,200	0.05
計		16,200		16,200	0.05

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役執行役員 CS推進事業部長 グローバルサービス部長 技術提携推進室長 同 上海事務所長	取締役執行役員 CS推進事業部長 グローバルサービス部長	寺岡 勇	平成30年11月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもってEY新日本有限責任監査法人となりました。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,676,455	20,599,441
受取手形及び売掛金	1 16,575,618	1 12,436,292
たな卸資産	10,557,429	12,882,172
その他	1,572,039	1,731,985
貸倒引当金	13,267	10,486
流動資産合計	50,368,275	47,639,403
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,682,815	11,025,076
機械装置及び運搬具(純額)	3,715,891	6,787,261
土地	5,088,192	5,088,192
建設仮勘定	6,551,428	213,318
その他(純額)	908,264	855,369
有形固定資産合計	23,946,592	23,969,217
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	1,058,661	2,813,662
長期貸付金	1,580	1,267
繰延税金資産	3,753,422	3,925,726
その他	513,202	506,696
貸倒引当金	63,131	63,131
投資その他の資産合計	5,263,735	7,184,221
固定資産合計	30,600,980	32,609,658
資産合計	80,969,255	80,249,061
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 6,965,369	1 6,896,898
電子記録債務	1 4,845,381	1 4,694,580
短期借入金	4,642,516	6,452,716
リース債務	497,443	560,382
未払法人税等	710,324	175,470
賞与引当金	698,284	236,611
役員賞与引当金	51,350	42,000
未払費用	2,671,266	2,899,884
その他	1 3,575,861	1 2,045,175
流動負債合計	24,657,797	24,003,719



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	7,598,516	7,420,054
リース債務	1,134,859	1,112,823
役員退職慰労引当金	460,541	503,735
退職給付に係る負債	6,456,968	6,468,788
資産除去債務	167,691	188,718
その他	2,400,769	2,309,623
固定負債合計	18,219,345	18,003,742
<b>負債合計</b>	<b>42,877,143</b>	<b>42,007,462</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,434,300	2,434,300
資本剰余金	2,191,263	2,191,263
利益剰余金	33,719,605	33,980,692
自己株式	10,495	10,495
株主資本合計	38,334,673	38,595,760
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	255,275	164,914
為替換算調整勘定	5,068	1,678
退職給付に係る調整累計額	545,889	562,772
その他の包括利益累計額合計	285,545	396,179
非支配株主持分	42,983	42,018
<b>純資産合計</b>	<b>38,092,111</b>	<b>38,241,599</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>80,969,255</b>	<b>80,249,061</b>

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	42,872,734	39,076,892
売上原価	32,996,827	30,113,747
売上総利益	9,875,906	8,963,144
販売費及び一般管理費		
販売費	5,922,001	6,151,931
一般管理費	2,013,407	1,782,683
販売費及び一般管理費合計	7,935,409	7,934,615
営業利益	1,940,496	1,028,529
営業外収益		
受取利息	11,201	9,939
受取配当金	38,901	44,719
為替差益	-	40,135
業務受託料	105,499	119,517
貸倒引当金戻入額	16,488	2,780
雑収入	80,749	64,141
営業外収益合計	252,840	281,233
営業外費用		
支払利息	75,903	77,255
為替差損	11,912	-
災害による損失	-	67,591
雑損失	20,708	7,830
営業外費用合計	108,524	152,676
経常利益	2,084,812	1,157,085
特別利益		
固定資産売却益	399	106
特別利益合計	399	106
特別損失		
固定資産売却損	213	-
固定資産廃棄損	12,012	10,030
ゴルフ会員権評価損	-	4,250
特別損失合計	12,225	14,280
税金等調整前四半期純利益	2,072,987	1,142,911
法人税、住民税及び事業税	444,289	530,432
法人税等調整額	224,358	125,148
法人税等合計	668,648	405,283
四半期純利益	1,404,338	737,628
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	950	965
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,405,288	738,593

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,404,338	737,628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54,722	90,360
繰延ヘッジ損益	5,083	-
為替換算調整勘定	17,456	3,390
退職給付に係る調整額	70,499	16,883
その他の包括利益合計	147,761	110,634
四半期包括利益	1,552,100	626,994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,553,050	627,959
非支配株主に係る四半期包括利益	950	965

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
当第3四半期連結会計期間において株式を取得したため、OFFICINE MECCANICHE TORINO S.p.Aについて持分法適用関連会社としています。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	246,333千円	275,630千円
支払手形	23,582千円	8,164千円
電子記録債務	169,719千円	170,234千円
その他(流動負債)	33,137千円	147,669千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	1,824,099千円	1,972,326千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	477,507	15	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	477,506	15	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	船用機関 関連	陸用機関 関連	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	35,109,624	5,037,478	40,147,103	2,725,630	42,872,734		42,872,734
セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
計	35,109,624	5,037,478	40,147,103	2,725,630	42,872,734		42,872,734
セグメント利益又は 損失( )	3,972,197	299,307	3,672,889	281,015	3,953,904	2,013,407	1,940,496

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機器関連事業、不動産賃貸関連事業、売電関連事業及び精密部品関連事業を含んでおります。  
 セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	船用機関 関連	陸用機関 関連	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	32,469,040	4,209,188	36,678,228	2,398,663	39,076,892		39,076,892
セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
計	32,469,040	4,209,188	36,678,228	2,398,663	39,076,892		39,076,892
セグメント利益又は 損失( )	2,717,738	148,831	2,568,906	242,306	2,811,212	1,782,683	1,028,529

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機器関連事業、不動産賃貸関連事業、売電関連事業及び精密部品関連事業を含んでおります。  
 セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	44円14銭	23円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,405,288	738,593
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,405,288	738,593
普通株式の期中平均株式数(株)	31,833,770	31,833,765

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月13日

ダイハツディーゼル株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	市	之	瀬	申	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	三	戸	康	嗣	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイハツディーゼル株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ダイハツディーゼル株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。